

歴史点描46 丸亀城内御殿炎上 その2

前回に続き渡邊家文書の『寸志金目録』の内容を見てみると、

「給人待遇」	山田村 井口善左衛門 金 30 両	上余部村 岩村市之丞 金 15 両
	下余部村 八木重郎右衛門 金 30 両	3 人で金 75 両
「御奉行方支配」	天満村 河野與次右衛門 金 30 両	天満村 福本新平 金 30 両
	黒崎村 堀弥次左衛門 金 30 両等	32 人で金 498 両
「網干三ヶ村」	興濱村 濱田村 苅屋村	84 人で金 247 両 2 歩
「川東組七ヶ村」	天満村 長松村 田井村 宮内村 津市場村 下余部村 上余部村	162 人で金 286 両 2 歩
「川西組十八ヶ村」	山田村 下村 中島村 加家村 釜屋村 黒崎村 片村 伊津村 稲富村 碓岩村 馬場村 野瀬村 金剛山村 浦部村 袋尻村 市場村 山津屋村 黍田村	216 人で金 245 両
「総計」	金 1352 両 28 ヶ村 497 人	(原文のママ記載)

50日程の間に各々個人で 1352 両もの少額ではない見舞金を集めたことに驚かされた。

山田村 井口善左衛門は川西組の大庄屋を務めた家である。「公報みつ」(松本保一著)の中で井口家のことについて書かれており、間口四十間(約72m)の長屋門を備えた大きな屋敷で、瓦葺の間数の多い大邸宅であったことが分かった。この屋敷には日本外史を著した頼山陽など様々な著名人も来訪している、しかし残念ながら建物は現存しない。下余部村 八木重郎右衛門は川東組の大庄屋である。現在は地元の保育園が園舎の一部として使用し、修繕された長屋門、屋敷や蔵などが今も残されている。

丸亀城も姫路城と同様に、明治に入り陸軍兵舎が置かれ天守閣は残されたが、武家屋敷等が取り壊され古文書類が散逸してしまい、旧領民の網干から元藩主への想いの『御見舞寸志金献上』についての受領書等の存在は確認することはできなかった。

網干歴史講座会員 新在家 森山式子



下余部 八木家修繕時の長屋門



興浜 渡辺家